

「東日本大震災教育支援基金開設」趣意書

去る3月11日に発生した東日本大震災は、空前の大地震と大津波に襲われる天災であつたばかりか、原子力発電所の事故を誘発する人類史上初の「原発震災」となりました。いまだ東北・関東では余震がつづき、深刻な放射能漏れも収束の目処すら立たない状態です。

被害の甚大さは途方もなく、被災地の復興までには長期的な支援が必要となるでしょう。報道によれば、津波などで両親や家族を亡くした震災遺児もかなりの数にのぼります。損壊した学校や教育施設も相当数あり、その実数はいまだに把握されていません。高校や大学への進学を諦めざるをえなくなる若者はかなりの数になると予想されます。

こうした状況に対し、社団法人倫理研究所は民間の社会教育団体として被災した子供や青少年のために微力を尽くさせていただくことを決意し、この度、教育支援基金を開設することにいたしました。

正式名称は「東日本大震災教育支援基金」とし、被災者に凛々たる勇気と元気を取り戻して欲しいとの願いを込めて、通称を「りんりん基金」といたしました。

本基金の目的は、両親や家族を失った遺児や若者たちの勉学を援助し、図書類の寄贈を含めた教育環境の整備に役立てることにあります。倫理研究所が拠出いたします三億円を核として、さらにこれに賛同する皆様から一口一万円の寄付を募って基金を充実させ、およそ十年間の支援計画を立てて運用いたしたいと存ずる次第です。

すでに全国の会員の皆さまには、各会で義捐金を募り、公的機関に寄贈していただいたほか、自主的にも被災地に救援物資を届けたり、お見舞いや励ましのメッセージを送るなど、個別に動いている会員も数多くおられます。

皆さまの真心に対して、衷心より感謝御礼を申し上げますと共に、さらに長期的な視点に立つ、この「りんりん基金」に一人でも多くの方々のご賛同を賜りますようお願いを申し上げる次第です。

大震災を機に、日本は変わり始めています。壊れかけていた日本で、家族や企業や地域における絆が、結び直されようとしています。防災やエネルギー対策をはじめ、あらゆる領域で日本の創生が成し遂げられなければなりません。

私共倫理研究所は、会員の皆さまと一致団結して、困難を乗り越え、日本創生に資する歩みをつづけてまいります。なにとぞご協力のほど、重ねてよろしく願い申し上げます。

(平成23年4月)